

# Ⅲ

## 産業革新都市

モノづくり産業を中心とした区内の産業集積を生かしつつ、社会経済状況の変化を踏まえた産業構造の転換への対応や、新産業の創出を支援するとともに、商業の振興を図り、地域経済が持続的に発展するまちを目指します。また、区内の観光資源を積極的に情報発信することにより、人を引き付ける魅力あるまちを目指します。

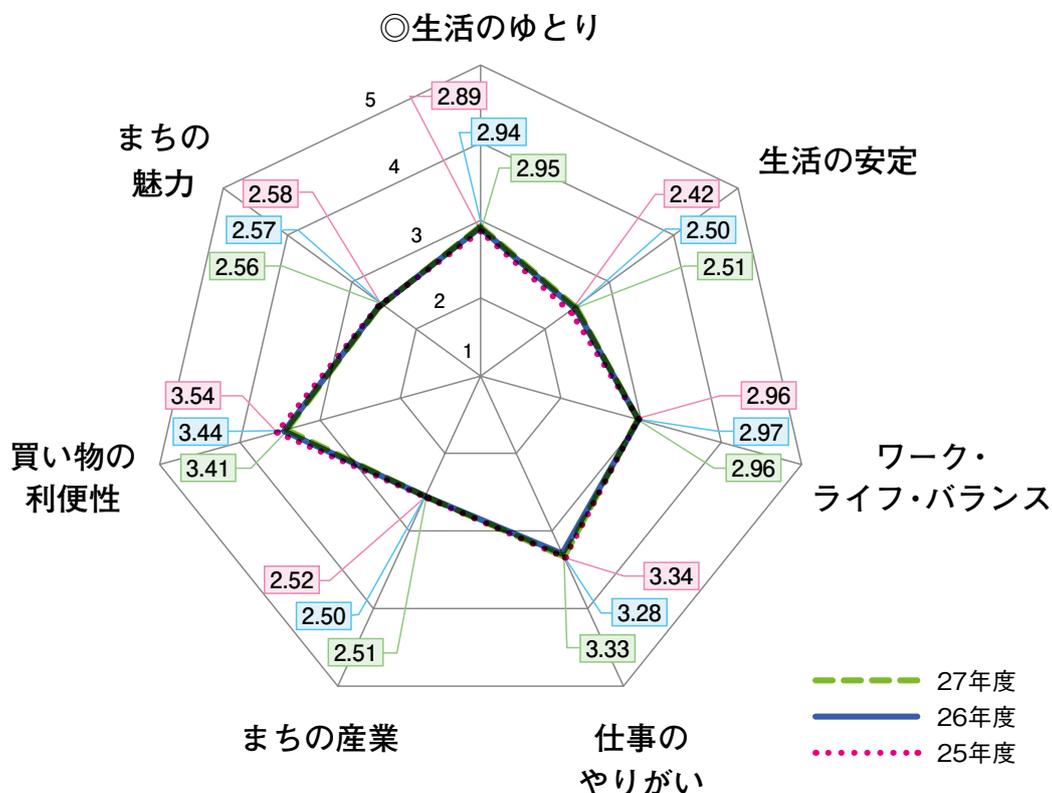
### 政策05

活力ある地域経済づくり

### 政策06

人が集う魅力あるまちの形成

## 産業分野の GAH 指標の実感度



「産業分野」の指標の実感度は、景気の影響を受けるため、測定が難しくなっています。

「産業分野」の指標においては、「買い物の利便性」の実感度が高くなっている一方、「まちの産業」、「まちの魅力」、「生活の安定」の実感度は低い傾向にあります。中でも、「まちの魅力」では居住年数の短い人の実感度が低くなっていることが分かりました。

こうした結果を踏まえ、区の観光資源の魅力を広く周知し、地域経済の活性化につなげる取組を推進していく必要があります。

また、区民一人一人の就労の希望を叶える支援を進めるとともに、就労の支援を区内企業の人材確保につなげます。

政策  
05

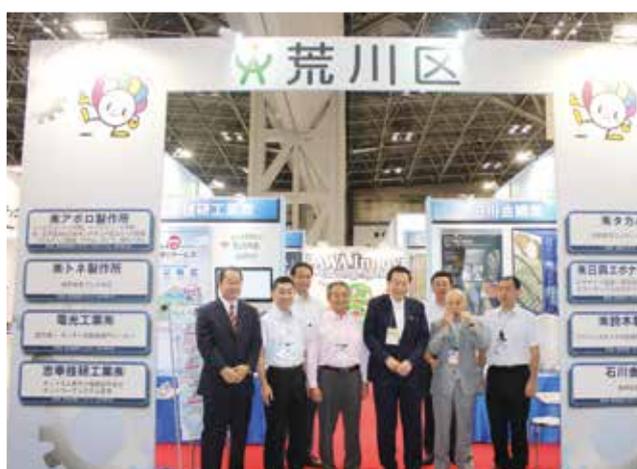
## 活力ある地域経済づくり



◻ 囲みは、重点施策

## 政策の方向性

- 国、都、関係機関等との連携を強化し、区が地域産業振興のポータル（窓口）となり、個々の事業者や起業家のニーズに合った支援策を提供していきます。
- 区の豊かな地域資源や産業集積を生かし、地域間連携や産学公金連携によるモノづくりクラスターの形成を計画的に進めることにより、モノづくりの街の再構築を図っていきます。
- 区内企業の後継者の育成や熟練技術者の技能の承継などを支援し、モノづくり企業の発展を促進します。
- 意欲のある商店街の振興や都電などの観光資源の活用により、商業の活性化を図っていきます。



機械要素技術展



商店街の様子

## 施策 創業・新事業創出の支援

【主な所管課：経営支援課】

創業・起業や新たな事業への取組を支援し、区内企業数の増加を図るとともに、新産業の創出につなげます。

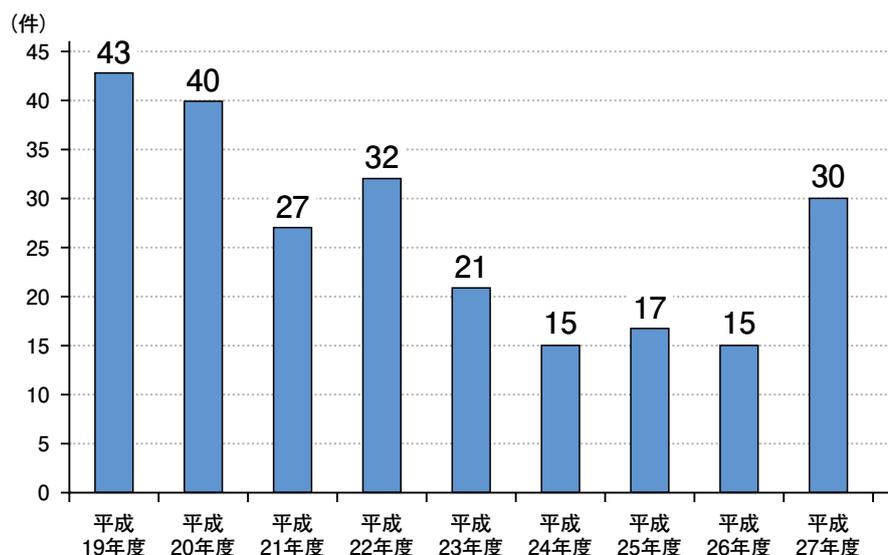
### 現状

- 国や都と同様にこれまでの景気低迷等により、荒川区においても事業所数の減少傾向が続いています。荒川区は、事業所の約2割を製造業が占めるモノづくりの盛んなまちであり、23区では、墨田区に次いで2位の集積度（平成26年経済センサス）を誇っています。
- 区内で創業・起業した事業所数は、廃止事業所数を下回る状況です。

※荒川区内での新設は1,298事業所、廃止は1,501事業所

- 創業に関する支援融資実行件数は、平成24年度まで減少傾向にありましたが、創業専用総合窓口や国の認定を受けた荒川区創業支援事業計画に基づき、民間の支援事業者や地域金融機関と連携することにより、近年では増加に転じています。

創業支援融資実行件数



## 課題

- 創業支援に関する施策情報を、将来有望な潜在的創業希望者に確実に届けるため、より積極的かつ多角的な情報提供を行う必要があります。
- 創業者の持続的な成長を図るため、創業期における限られた経営資源の有効活用や経営基盤の安定化を支援していく必要があります。
- 日暮里繊維街など豊かな地域資源を生かした支援策を構築していく必要があります。

## 今後の方向性

- 創業支援事業計画の認定支援事業者である、中小企業診断士等の団体や金融機関等との連携を深め、情報提供のチャンネルの多角化を行いながら、意欲的な創業希望者との接触を図り、創業数の増加につなげていきます。
- 創業支援融資の積極的な活用を促進し、意欲的な創業希望者の資金需要に対応します。
- 新たに平成 31 年度に竣工予定の「(仮称) 日暮里地域活性化施設」の中に、デザイン関係等のインキュベーション機能<sup>(※1)</sup>を設置するなど、区内の地域資源を最大限活用して創業・起業を支援します。

(※1) インキュベーション機能 … 起業家を育成・支援する機能。

## 施策 企業経営革新の支援

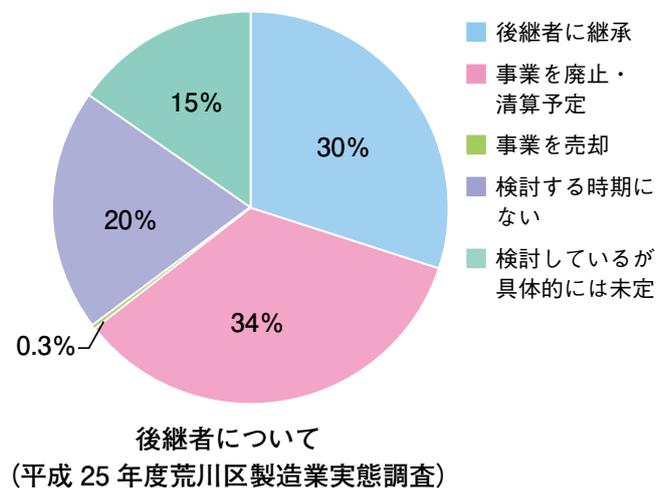
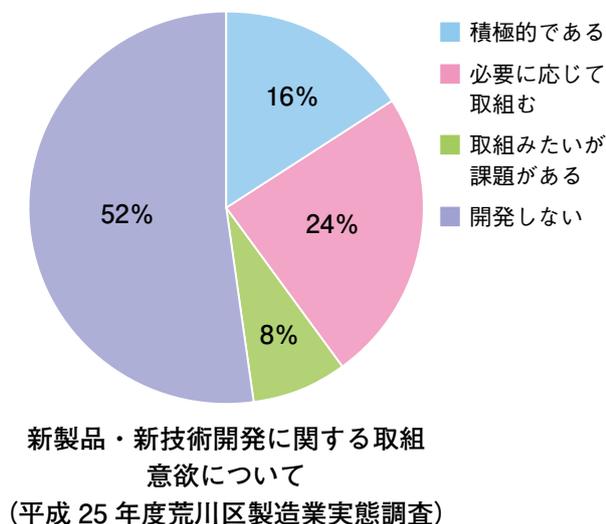
【主な所管課：経営支援課】

区内企業が安定的な経営を行うため、企業競争力・経営力の強化に向けた新製品・新技術開発や販路拡大が積極的に行われるように支援を図ります。

また、モノづくり企業の熟練技術者等の後継者が持続的に育成され、次世代へ技術を承継できるように支援を図ります。

### 現状

- 平成25年度荒川区製造業実態調査によると、強化すべき区の施策の第1位は資金の調達支援、続いて、販売の促進策が第2位になっています。  
また、新製品・新技術の開発に関する取り組む意欲については、「積極的である」、「必要に応じて取り組む」という前向きな回答が約4割を占めるものの、実際に開発に取り組んでいる企業は一部となっています。
- 平成25年度荒川区製造業実態調査によると、区内企業経営者の高齢化が進行しており、また、後継者不足から約3分の1の事業者が廃業等を予定している状況です。



## 課題

- 企業経営者が経営基盤を安定化できるよう、将来を見据え、事業に必要な資金調達、施設の整備や、経営に関する知識やノウハウを修得できるような支援の必要があります。
- 区内企業の収益を向上させ、企業競争力・経営力を強化していくためにも、新製品・新技術の開発や販路拡大などを支援していく必要があります。
- 若者のモノづくりに対する関心の低下もあり、熟練技術者の高度な技術・技能を受け継ぐ後継者が不足していることから、優れた技術・技能を円滑に承継していくための支援の必要があります。

## 今後の方向性

- 区内企業を取り巻く経済状況を踏まえ、企業経営及び設備投資に必要な資金の調達支援に取り組むとともに、国、都及び関係機関等と連携し、多面的な支援を行います。
- 経営に必要な知識や市場動向等に関する情報を提供するとともに、相談体制を整備することにより、区内企業の経営課題の解決力向上及び経営人材の育成を図ります。
- 区内企業の大規模展示会への共同出展や知的財産戦略支援に取り組むとともに、T A S K（台東、荒川、足立、墨田、葛飾）事業の広域連携により、地域の強みやアイデアを生かした新製品・新技術の開発や販路拡大を図ります。
- 技術・技能が円滑に次世代へ承継していくため、国、都及び関係機関等と連携し、多様な支援を進めるとともに、「モノづくりの街あらかわ」をより丁寧に区民にPRし、後継者の確保や技術・技能の承継に関する事業の充実を図ります。

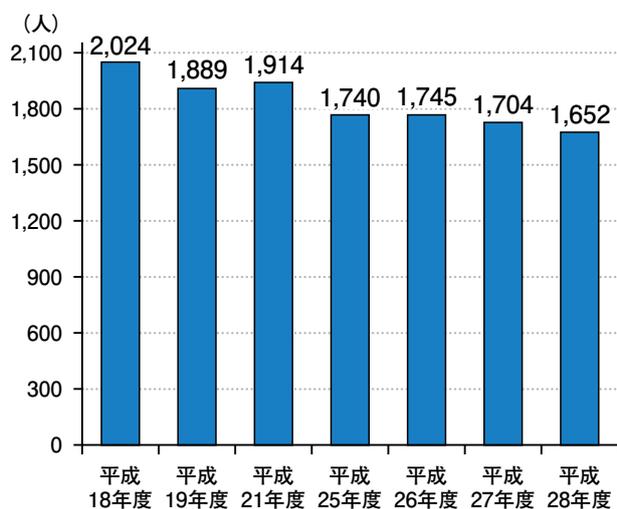
## 施策 活気あふれる商店街づくり

【主な所管課：産業振興課】

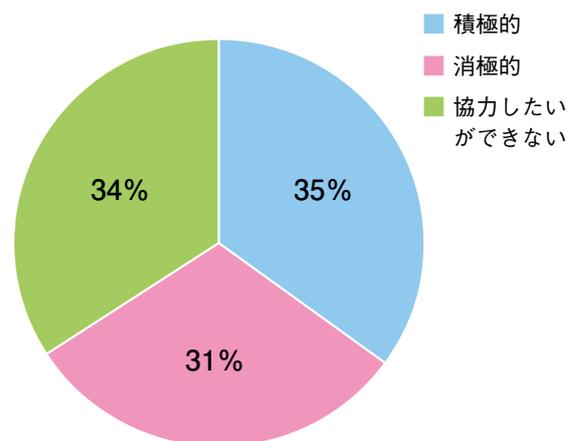
区内商店街で地域住民が日常の買い物をするとともに、店主等との会話が交わされ人の輪が広がることにより、商店街全体が活性化するように支援を行います。

### 現状

- 荒川区商店街連合会加盟会員数は減少傾向にあり、平成28年度では、平成18年度に比べ約18%減少しています。また、区内の卸売業、小売業、飲食業の事業所数についても、減少傾向にあります。
- 商店街は、区民の日常生活を支える存在であるとともに、地域の人々の交流の場としての役割を担っていますが、商店街の利用減少に伴い、住民と地域コミュニティ、商店街とのふれ合いの機会が減少しつつあります。
- 平成26年度荒川区商業事業者訪問支援事業調査によると、商店街で実施しているイベント等への参加率について、「消極的」、「協力したいが参加できない」と回答した事業者が約65%となっております。



荒川区商店街連合会加盟会員数の推移



商店街事業参加意向  
(平成26年度荒川区商業事業者訪問支援事業調査)

## 課題

- 大型店の増加やインターネット通販の普及等により、商店街での買物が減少傾向にあり、商店街ならではの魅力を強く発信する必要があります。
- 住民と商店街とのつながりが希薄化する中、本来商店街が持っている地域コミュニティの核としての機能を十分に発揮できるよう支援する必要があります。
- 商店街で実施するイベントの減少は、商店街及び地域のにぎわいの低下につながるため、積極的な商店街活動や新たな商店街事業の展開ができるよう支援する必要があります。

## 今後の方向性

- 商店街が実施するイベント事業への継続的な支援を行うことで、商店街への来訪者を増やし、地域のにぎわいを創出できるよう支援していきます。
- 引き続き、日暮里ファッションショーへの支援を継続するとともに、新たに平成31年度に竣工予定の「(仮称)日暮里地域活性化施設」などを活用することにより、観光スポットとしても有名な日暮里繊維街の魅力を強く発信し、他地域への来街者を荒川区へ呼び込む流れを構築します。
- 商店街活性化に向けた継続的な支援として、都と連携しながら、商店街の施設整備やイベント事業などのハード面、ソフト面の両方から支援に取り組みます。
- 商店街がコミュニティの核としての機能を更に充実させるために、地域住民を巻き込んだイベントの実施や、ホームページ・SNS等を活用した情報発信を積極的に行っていきます。
- 区は、にぎわいコーディネーター・企業相談員<sup>(※1)</sup>の派遣や各種支援の充実等に取り組むことで、商店街の組織力を強化させ、商店街の活性化につながるよう、きめ細やかなサポートに取り組んでいきます。

(※1) にぎわいコーディネーター・企業相談員… 中小企業診断士等の資格を有し、商店街振興や地域のイベントの企画・実施の経験を有する専門家が、商店街振興策や個店の経営改善等に関する相談や各種補助制度の案内を行う。

## 施策 魅力あふれる個店づくり

【主な所管課：産業振興課】

来街者が何度でも訪れたい魅力ある店舗を生み出すための支援を充実するとともに、意欲のある個店同士が連携し、技術と知恵を結集させることができる仕組みづくりを支援していきます。

### 現状

- 平成27年度家計消費状況調査によると、世帯におけるインターネットを通じた商品やサービスの購入金額は、平成26年度は平成14年度に比べ5.2倍に増えています。
- こうした中、区では、これまでに地域に密着した商店街ならではの個店に着目し、その魅力と存在価値を高めるため、「街なか商店塾」、「一店逸品運動」を推進し、こだわりの店の発掘やPRを進めてきました。
- 平成26年度荒川区商業事業者訪問支援事業調査によると、他店同業種との交流について、「有り」は約40%、「無し」は約60%という結果となっており、一定の割合は維持していますが、他業種や他地区での連携については、約80%が「無し」と回答しており、新たな関係構築への消極的な姿勢が伺えます。

### 課題

- 商店街の客足が減少傾向にある中、多くの個店では、顧客との会話を通じて消費者に訴求力を持つという商店街ならではの優位性を生かしきれておらず、その隠れた魅力を引き出すための支援が必要です。
- 個店がノウハウや情報の収集・事業のPR等の取組を単独で行うことは、限界があるため、個店同士が互いに協力し、相乗効果を上げる取組が必要です。

## 今後の方向性

- 意欲ある個店への継続的な支援として、「街なか商店塾」、「一店逸品運動」を一層推進し、個店の魅力向上に取り組めます。
- 魅力ある個店の発掘を進めるとともに、個店の魅力の一層の向上を図るため、専門的な知識を持ったコーディネーターによるアドバイス、ノウハウの提供等の支援を充実します。あわせて、魅力ある個店を広く周知し来街者の増加を図るため、区内外へのPRを積極的に進めます。
- 魅力ある個店同士が、商店街の枠を越えてネットワーク化を進めるとともに、他業種との連携を強化することで、情報交換や相互の支援等を行える機会を充実し、新たなアイデアや取組を創出できるよう支援します。



街なか商店塾



一店逸品発表会

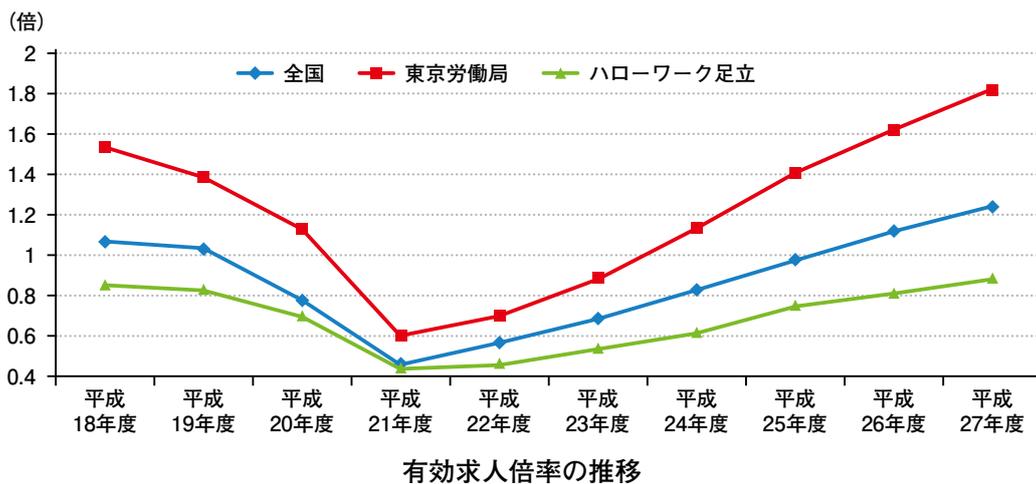
## 施策 就労・人材確保の支援

【主な所管課：就労支援課】

就労の意欲のある全ての区民が、希望した職に就くことができるよう、一人一人に寄り添った支援を行います。また、区内中小企業における求人活動を支援し、適格な人材確保につなげます。

### 現状

- 区では平成24年度に就労支援課を設置し、ハローワーク等と連携しながら、これまで国の専管事項とされていた「就労」について積極的に支援を行っています。
- 有効求人倍率など雇用に関する指標は、近年大幅な改善傾向にあります。
- 一方、区は中小企業が多く、区内企業の人材確保は厳しい状況にあります。



### 課題

- 有効求人倍率等の雇用指標は近年改善傾向が続いていますが、年齢層ごとに個々の課題を抱えているケースがあります。若年層における無業者が一定程度いることや、出産・子育てのために一度離職をした女性は、ブランクも含め再就職が困難であることなどが挙げられます。高齢者については、定年退職後も引続き就労意欲が高い方や、経済的な理由により就労を希望しているケースがあります。
- 企業が持続的に発展していくためには安定した人材の確保が必要です。特に、これまで少人数の社員で経営をしてきた企業等では、求人活動についてのノウハウが乏しく、支援が求められます。

## 今後の方向性

- 年齢やライフスタイルに応じた就労の希望をかなえるため、個々人の課題にあわせた、きめ細やかな就労支援を行います。
- 働く希望を持った女性を対象に、家庭と仕事を両立する働き方の提案や、子育て中の方の再就職に向けた各種セミナーや相談体制の充実を図ります。また、マザーズハローワークとの連携を一層強化し、子育て女性等の再就職を支援します。
- 働く意欲が乏しい若者や、働きたくても就職活動のノウハウを持たずに就職できない若者及びその保護者を対象に、各種セミナーやアウトリーチ型の訪問支援など相談体制の充実を図ります。また、若者の将来の希望をかなえるため、わかものハローワークとの連携を一層強化し正規雇用としての就職を支援します。
- 高齢者の多様な就労ニーズに応えるとともに、潜在的な労働力の掘り起こしという観点から、定年退職後の高齢者等がこれまでの経験を生かした就労ができるよう各種セミナーの充実を図るとともに、JOBコーナー町屋と連携し再就職を支援します。
- 区内企業の人材確保という視点からも就労支援に取り組みます。地元の中小企業を中心に、若手人材等の求人ニーズに応えるため、求人活動のアドバイスやコンサルティングを行い、企業見学会や就職面接会を開催し、適格な人材の確保を支援します。



わかもの就労サポートデスク（奥）  
子育て女性のおしごと相談デスク（手前）



子育て女性のキャリアアップ講座

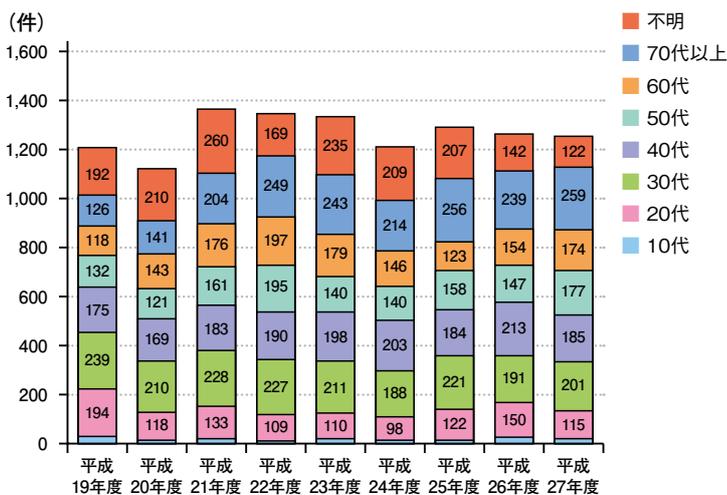
## 施策 消費生活の安全安心の確保

【主な所管課：産業振興課】

消費者トラブルを未然に防ぎ、区民一人一人が安全で安心な消費生活を送ることができるような支援を推進します。

### 現状

- 平成27年度に寄せられた消費生活に関する相談件数は1,258件となっています。中でも、70歳以上の相談は、平成19年度が126件だったのに比べ、平成27年度は259件と約2倍となっています。
- 荒川区は、高齢者のいる世帯の半分近くが一人暮らしです。高齢者の独居化により、周囲の目が届きにくく、相談がしにくい等、消費者被害の発見が遅れて深刻化する場合もみられます。また、悪質商法の手口は手の込んだものとなっており、消費者が騙されたことに気付かないような巧妙なものが増加しています。
- 消費者相談全体の中で、電子商取引等の利用が飛躍的に拡大していることに伴い、インターネットでの架空請求などのインターネット通信サービスに関する相談が増え、相談全体の4分の1を占めています。



年齢別相談件数の推移

相談の多かった上位5位の内容（相談全件数 1,258件）

順位	主な相談内容	件数
1	アダルト情報サイト・オンラインゲーム等	231
2	フリーローン・サラ金による多重債務等	92
3	賃貸アパート退去時のトラブル等	82
4	広告代理や商品回収等サービスの相談	60
5	インターネット通信サービス（光回線の契約等）	52

平成27年度上位5位相談内容

## 課題

- 寄せられた相談では、誰にも相談せず、なかなか気付かれなかった結果、消費者被害が拡大しているケースが多いため、初期段階で迅速かつ適切な対応による被害の拡大防止につながるような仕組みを作る必要があります。
- 高齢者や社会経験が乏しい若者を狙った悪質商法が次々に新しい手口で現れ、巧妙化が進んでいます。手口の最新情報が十分に行きわたる前に、被害が拡大しており対策が必要です。
- 通信手段の大幅な進歩により、インターネット通販などのインターネット取引に伴うトラブルや、SNSをきっかけとして消費者被害に遭う事例がみられます。消費者被害を未然に防ぐには、区民一人一人が正しい知識を身に着ける必要があります。

## 今後の方向性

- 国民生活センターや都などの関係機関と連携を図り、相談体制を強化するとともに、最新の事例とその対策の情報収集に努めます。
- 区報による啓発記事などにより、消費生活に関する知識を定期的に情報発信します。また、消費者被害防止のための情報を、情報が届きにくい一人暮らし高齢者等にも幅広く提供するため、周知の方法を工夫し、高齢者のみまもり配食サービスで啓発チラシを配布するなど、地域団体、事業者等と協働し、地域の見守り強化を図ります。
- 消費生活に関わる問題意識の向上を図るため、インターネット・SNS等を利用した新たな手口の周知も含め消費者教育を効果的に行い、消費者講座の内容や実施方法について、より一層の工夫を行います。

政策  
06

# 人が集う魅力あるまちの形成

■ 観光資源の発掘とにぎわいの創出

■ 受入体制の充実と観光情報の発信

□ 囲みは、重点施策



みかわしまーな

## 政策の方向性

- 地域や産業の活性化を図るため、新たな観光資源の発掘、形成などにより、観光振興を推進していきます。
- 都電荒川線や隅田川、あらかわ遊園などの区内の観光資源、歴史文化資源を有機的に結び付け、回遊性を高める取組を進めていきます。
- 区内外へ積極的な観光情報の発信を進めるとともに、近隣区と連携した観光ルートづくり等により、観光客が荒川区を訪れ楽しめるような環境の整備を進めていきます。



観光案内所



ラッピング都電



芭蕉像

## 施策

## 観光資源の発掘とにぎわいの創出

【主な所管課：観光振興課】

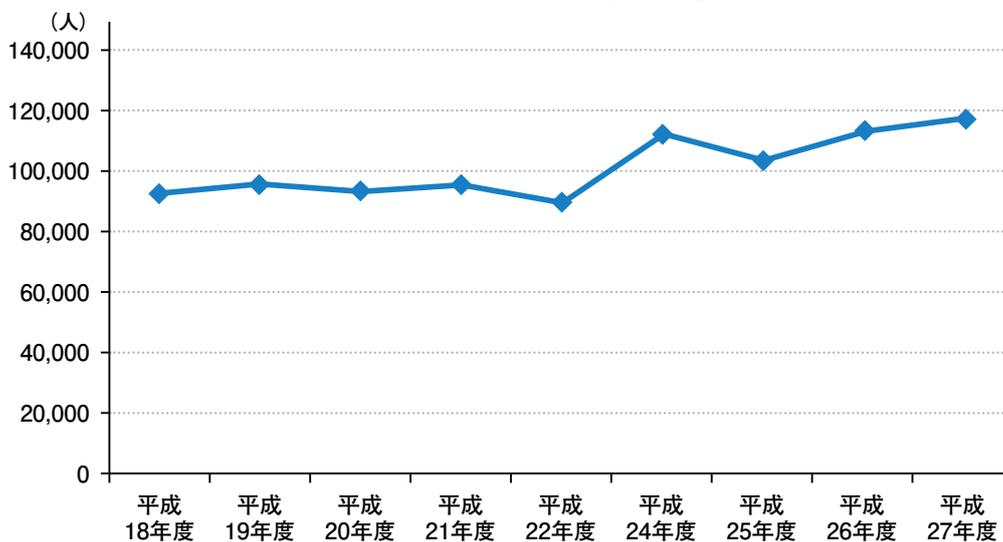
荒川区の各地域で培われてきた固有の歴史、伝統、文化、産業や下町の人情などの区の魅力を観光資源として活用するとともに、新たな観光資源の発掘に積極的に取り組みます。

また、区や地域の団体等が開催する集客力の高い魅力あるイベントにより、区内外から多くの人を訪れるきっかけ作りを進め、にぎわいを創出します。

## 現状

- あらかわ遊園や都電とバラ、日本の伝統的な工芸技術や卓越した技能を持つ職人によるモノづくり、隅田川の水辺空間、奥の細道サミットを契機とした「俳句のまち」宣言など、地域資源を新たな観光資源として効果的に活用しています。
- 区では、それぞれの地域の方々と連携を図り、様々な観光イベントを開催しており、これまでイベント内容の充実、回数の増加など、質、量共に拡充を図ってきました。前期基本計画を策定した平成18年と比べ、観光イベントの来場者数は着実に増加しています。

観光イベント来場者数の推移



※ 23年度は、東日本大震災の発災により川の手荒川まつりを中止

## 課題

- 荒川区を訪れる人を更に増やしていくためには、新たな観光資源となるような“場所”、“もの”等の発掘・育成と併せて、より魅力的なイベント等を実施していく必要があります。
- そのためには、区が主体となった観光振興に加え、区民や区内事業者の観光に対する自主的な取組意欲を高めるとともに、他の自治体との広域的な連携を進め、観光振興を図ることが求められます。

## 今後の方向性

- 荒川区の歴史、伝統、文化遺産やあらかわ遊園、都電とバラ、モノづくりといった既存の観光資源の更なる活用に加え、新たな観光資源の発掘に積極的に取り組みます。さらに、それらを「荒川ブランド」として育成し、観光資源の魅力向上とにぎわい創出による産業振興を図ります。
- より多くの方に荒川区を訪れていただく機会を増やすため、地域資源を活用した魅力ある観光イベントの充実に努めます。また、区内事業者による観光客誘客のための取組に対して支援を行います。
- さらに、観光資源の活用、観光イベントの実施に当たっては、近隣区とも連携を図ることで相乗効果を高めます。特別区全国連携プロジェクト等も活用し、訪れる機会の更なる拡大を図るとともに、他の自治体とWin-Winの関係を構築します。



川の手荒川まつり



水辺フェスタ



モノづくり見学・体験スポット

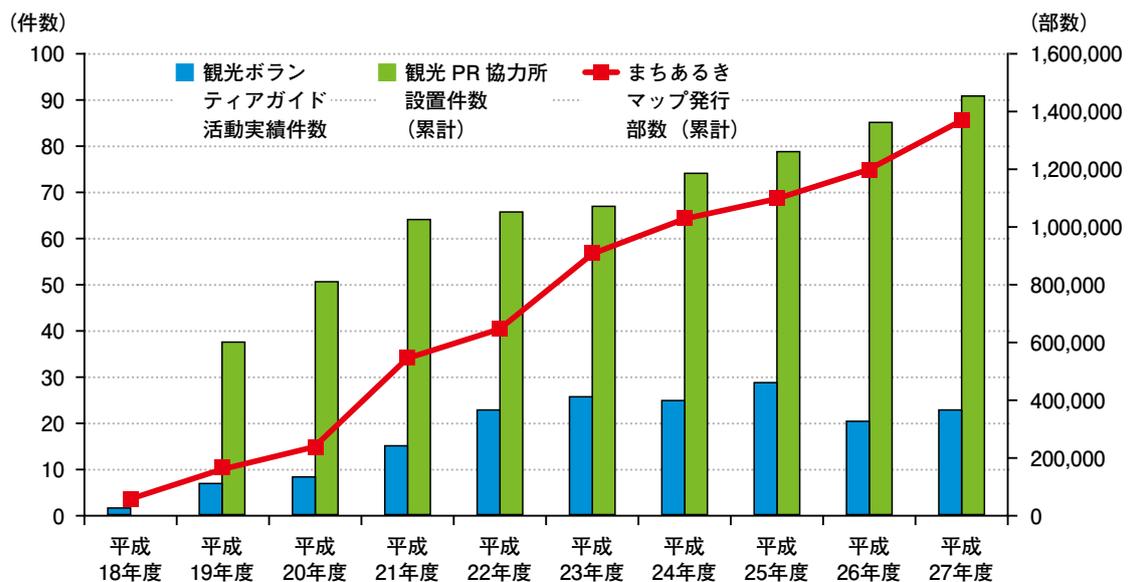
## 施策 受入体制の充実と観光情報の発信

【主な所管課：観光振興課】

国内外から荒川区を訪れる観光客の受入体制を充実させるとともに、広く荒川区の魅力を発信し区のイメージアップと知名度向上を図ります。

### 現状

- 観光ボランティアガイドの活動実績は事業開始当初と比べ増加しています。
- 観光PR協力所やまちあるきマップの発行部数は、年々増加しています。
- 平成28年度に日暮里観光案内所等を設置し、旅行者等への観光案内と併せて、区の観光情報の発信に努めています。



観光ボランティアガイド活動実績件数、  
観光PR協力所設置件数、まちあるきマップ発行部数の推移

### 課題

- 区では観光ボランティアガイドの活動促進や観光案内所の設置など、受入体制の充実を図ってきました。今後は、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催やその後の展開を見据え、外国人観光客を含めた受入環境の整備が求められます。

- 観光PR協力所やまちあるきマップの発行部数は年々増加していますが、これまで、区内向けの情報発信が中心となっていました。今後は、区民をはじめ、これまで荒川区を訪れる機会のなかった人たちに対しても、積極的に区の魅力を発信していく必要があります。

## 今後の方向性

- 荒川区を訪れた人が安心して快適に過ごすことができ、「また訪れたいまち」と思えるように、受入体制の充実を図ります。荒川区を熟知した観光ボランティアガイドによる「まちあるきツアー」では、更に魅力的なコースを考案するなど、魅力向上を図ります。また、観光案内所等を受入の拠点として、区内関係機関や関係団体、交通事業者等と連携し、質の高いサービスを旅行者に提供します。
- 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を契機に、今後国外からの旅行者の増加が見込まれることから、外国語に対応した観光案内、ユニバーサルデザインによる案内標識の整備など、外国人観光客を「おもてなし」する体制を整備します。
- 「多くの人々が荒川区を知っている」という状態を目指し、区のイメージアップと知名度向上を図ります。  
引き続き、観光PR協力所の拡大を進めるほか、外国語版観光パンフレットの作成等、日本を訪れる観光客にとって、より魅力的なサービスの提供に努めます。
- 区の魅力を広く発信するため、国内外に向けた多様な情報発信手段の検討・活用を進めます。



まちあるきの様子（南千住地区）



観光パンフレット